

高等学校 保健体育科（科目保健）

単元名 「保健・医療制度及び地域の保健・医療機関」（第2学年）*

※原則として入学年次又はその次の年次に履修

1 単元の目標

- (1) 我が国の保健・医療制度、地域の保健・医療機関の活用、医薬品の制度とその活用について理解することができるようにする。
- (2) 保健・医療制度及び地域の保健・医療制度に関わる情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な整備や活用方法を選択し、それらを説明することができるようにする。
- (3) 我が国の保健・医療制度、地域の保健・医療機関の活用、医薬品の制度とその活用について、自他の健康の保持増進や回復及び健康な社会づくりについての学習に主体的に取り組もうとすることができるようにする。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①我が国には、人々の健康を支えるための保健・医療制度が存在し、行政及びその他の機関などから健康に関する情報、医療の供給、医療費の保障も含めた保健・医療サービスなどが提供されていることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>②健康を保持増進するためには、検診などを通して自己の健康上の課題を的確に把握し、地域の保健所や保健センターなどの保健機関、病院や診療所などの医療機関、及び保健・医療サービスなどを適切に活用していくことなどが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p> <p>③医薬品は、医療用医薬品、要指導医薬品、一般医薬品の三つに大別され、承認制度によってその有効性や安全性が審査されており、販売に規制が設けられていること、疾病からの回復や悪化の防止には、個々の医薬品の特性を理解した上で、使用法に関する注意を守り、正しく使うことが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</p>	<p>①我が国の保健・医療制度について、自他や社会の課題を発見し、その解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明している。</p> <p>②医薬品の制度とその活用について、医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、生活の質の向上のために利用の仕方を整理し、説明している。</p>	<p>①保健・医療機関及び地域の保健・医療機関について、課題の解決に向けての学習に主体的に取り組もうとしている。</p>

3 指導と評価の計画（5時間扱い）

	主な学習内容・学習活動	知	思	態	評価方法
1	<p>○保健・医療制度や保健・医療サービスについて理解する。</p> <p>○医療保険の仕組みについてワークシートにまとめる。</p>	①			観察 ワークシート
②	<p>○献血の制度について自他や社会の課題を挙げ、解決方法について考える。</p> <p>○Web サイトや資料を活用して献血に関する情報を整理し、個人や社会の課題をワークシートにまとめ、グループで話し合い、発表する。</p>		①		観察 ワークシート
3	<p>○健康を保持増進するためには、保健機関、医療機関、保健・医療サービスなどの適切な活用が必要であることを理解する。</p> <p>○行政が提供する保健サービス、地域における医療機関の連携についてワークシートにまとめる。</p>	②			観察 ワークシート

4	○医薬品は承認制度により有効性や安全性が審査され、販売に規制が設けられていること、使用法に関する注意を守り正しく使う必要があることを理解する。 ○医薬品の種類と販売規制、医薬品の正しい使い方についてワークシートにまとめる。	③		観察 ワークシート
5	○医薬品には承認制度があり、販売に規制が設けられていることと関連付けながら、利用の仕方を個人で整理し全体で発表する。		② ①	観察 ワークシート

※主体的に学習に取り組む態度の評価については、単元を通して総括することとした。

4 本時の指導案（2／5時）

(1) 本時の目標

○保健・医療制度（献血）について自他や社会の課題を発見し、その解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明できるようにする。

(2) 展開

段階	学習内容と学習活動	学習形態	教師の指導・支援（◆評価規準と方法）
導入	1 前時の振り返りをする。 ○ 行政や医療機関などから保健・医療サービスが提供されていること。	一斉	
	2 献血の概要を理解する。 ○ 問／献血は何歳からできますか？ ○ 血液は人工的に造ることができないこと、長期保存ができないため定期的な供給が必要であること。	一斉	○ 血液事業のうち、献血を取り上げて説明する。 ○ 高校生年代から献血が可能であることに触れ、自分事として意識できるようにする。 ○ 献血の概要について、ワークシートの空欄を埋めながら整理できるようにする。
展開	3 学習のねらいを知る。		
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【学習課題】 保健・医療制度（献血）について自他や社会の課題を見付け、その解決に向けた方策について考えよう。</p> </div>		
	4 若年層献血意識調査（H23）の結果について教師の説明を聞く。	一斉	○ 献血制度に関する課題発見のきっかけとなる視点を提示する。
5 献血に関わる課題と、その解決方法について Web サイト等を利用して情報を整理し、個人でワークシートにまとめる。	個人	○ グループ毎にテーマを割り当て、関連する Web サイトのリンク示すことで情報を整理しやすくする。また、高校生用テキスト（けんけつ HOP STEP JUMP）をグループに配付し活用できるようにする。	
6 個人でまとめた内容をもとにグループ内で話し合い、発表用スライドシートにまとめる。	班	○ 進行役、記録係、発表者を決め、グループワークが円滑に進められるようにする。 ○ 課題の解決方法について、個人ができる取組と社会全体で取り組むことに分類して考えるように促す。	
<p>◆思考・判断・表現-①（学習活動6） 【観察・ワークシート（授業後）】</p>			

	7 いくつかのグループが発表し全体で共有する。	一斉	○ スクリーンに発表グループが作成したスライドシートを投影し全体で共有する。
まとめ	8 本時の学習のまとめをする。 ○ 授業を通して理解し考えたこと、他者の意見を聞いて考えが広がったことなどについてワークシートにまとめる。 ○ まとめた内容について数名の発表を聞く。 ○ 教師のまとめを聞く。	個人 一斉 一斉	○ 発表用スライドシートを共同編集ファイルで作成することで、他のグループの作成シートを随時閲覧できるようにする。 ○ 個人の健康の保持増進を支えるために保健・医療制度があり、本時の学びだけではなく、様々な場面で個人ができることや社会全体で取り組む必要があることについて考えていくことが、健康を支える環境づくりに大切であることを伝え、次時の学習に繋げる。

5 資料等

○板書計画

【スクリーン1】

【スクリーン2】

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【本時の目標】 保健・医療制度（献血）について自他や社会の課題を見付け、その解決に向けた方策について考えよう。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 献血の必要性（1～3班） （特徴、種類、用途） ・ 献血の安全性（4～6班） （手順、基準、安全対策） ・ 献血の推進（7～9班） （キャンペーン、普及啓発の取組） </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>【進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人で調べまとめる（ワークシート） 2 グループで話し合う（進行、記録、発表役） →発表シートの作成 3 全体で発表し共有する </td> </tr> </table> <p>【課題解決に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人が取り組めること、社会全体で取り組む必要があること ・ その取組を行ったり推進したりするための工夫や条件 </div>	<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 献血の必要性（1～3班） （特徴、種類、用途） ・ 献血の安全性（4～6班） （手順、基準、安全対策） ・ 献血の推進（7～9班） （キャンペーン、普及啓発の取組） 	<p>【進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人で調べまとめる（ワークシート） 2 グループで話し合う（進行、記録、発表役） →発表シートの作成 3 全体で発表し共有する 	<div style="border: 1px solid black; padding: 50px 20px;"> <p>教師の説明スライドの表示 発表シートの表示（共有）</p> </div>
<p>【テーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 献血の必要性（1～3班） （特徴、種類、用途） ・ 献血の安全性（4～6班） （手順、基準、安全対策） ・ 献血の推進（7～9班） （キャンペーン、普及啓発の取組） 	<p>【進め方】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 個人で調べまとめる（ワークシート） 2 グループで話し合う（進行、記録、発表役） →発表シートの作成 3 全体で発表し共有する 		

○教師説明スライド

献血について

献血は何歳からすることができますか？

献血ってどうして必要なの？

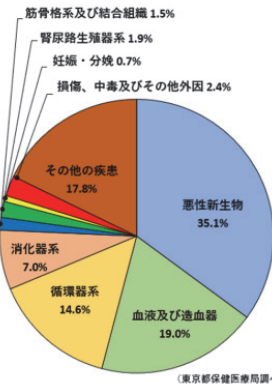
- 血液を必要としている患者さんが大勢いる

例えばこんなときに…
 ・がん ・白血病 ・感染症 ・血友病 ・手術 ・出産
- 血液は…
 - ・人工的に造れない
 - ・長期保存ができない
- 一人あたりの献血の回数・量には制限がある

多くの皆様のご協力が必要！

けんけつ HOP STEP JUMP（2024年度版）厚生労働省 より引用

疾病別輸血状況 (2022年 東京都)



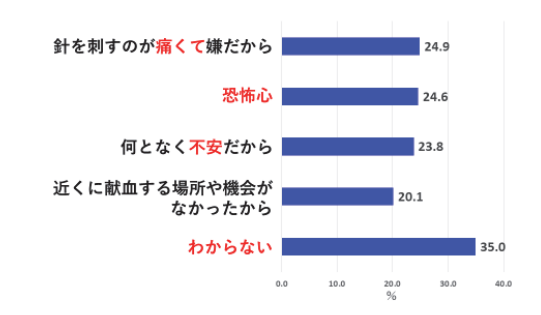
輸血用血液製剤の多くは、不慮の事故等に伴うものではなく、がん(悪性新生物)の患者さんの治療に使用されています。
また、使用する方の約87%は50歳以上です。

10代~30代の献血者数の推移



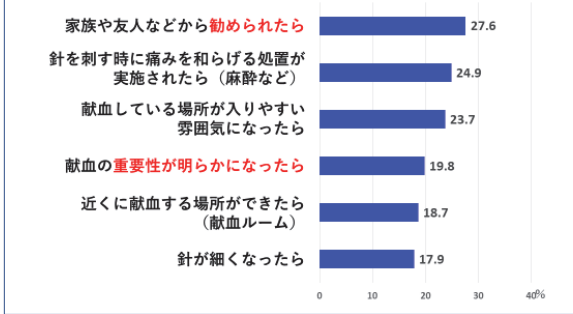
「初めて献血される方へ」(日本赤十字社) (<https://www.jrc.or.jp/donation/first/>) から引用

献血をしたことがない理由 (高校生上位3つの累計)



「若年層献血意識調査—結果報告書—(平成23年10月)」(厚生労働省) (<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001vyxk-att/2r9852000001vz2o.pdf>) をもとに作成

献血するきっかけとなり得る要因 (高校生上位3つの累計)



「若年層献血意識調査—結果報告書—(平成23年10月)」(厚生労働省) (<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001vyxk-att/2r9852000001vz2o.pdf>) をもとに作成

1 献血の概要

- 日本では、()により血液事業が行われており、献血によって採取された血液が血液製剤として医療機関に供給されている。
- 病気や薬の影響などにより体内で十分に血液をつくることができなくなったり、事故や手術などで大量出血したりした時には、()が必要になる。
- 医療に使用される血液は() ことができない。また() できない。
- 輸血用血液製剤の多くは不慮の事故等ではなく() の治療に使用されており、輸血が必要な患者の87%は() 歳以上である。
- 少子高齢化が進む中で、近年では() 歳代から() 歳代の献血者数の減少が目立っている。

2 献血の課題

--

3 調べ学習

【 班】 テーマ：

3 課題解決のために考えられる方策

(1) 個人で取り組むことができること	(2) 社会全体で取り組む必要があること
(その取組を行いやすくする工夫や条件)	(その取組を推進する工夫や条件)

4 保健・医療制度の活用についてのまとめ

(授業を通して理解し考えたこと、他者の意見を聞いて考えが広がったことなど)

--